

ニ ュ ー ス

第6回国際OR学会連合(IFORS)国際会議への論文募集

■ 第6回国際OR学会連合の国際会議は、1972年(昭和47年)8月21日から25日にかけて、アイルランドのダブリンで開催されます。

この会議はアイルランドOR学会が幹事役で、Fred J. Ridgway氏(Bank of Ireland Group)がGeneral Chairmanとなり、西ドイツのMüller-Merbach教授をProgram Chairmanとして準備が進められております。

■ 会議の主要目的は、企業や地域問題はもとより国内・国際諸問題に対するORの問題解決への能力を実証することであり、運営上も非公式な討議が促進されるような環境を作り出すことに考慮がはられております。

■ プログラムの概要

1 招待講演

開会式のあとで、3人の著名な招待講演者による挑戦的課題へのORの応用についての講演

2 総合報告

- (1)数理計画 (2)確率過程 (3)不確定状況下での計画立案 (4)企業計画モデル (5)一般システム理論 (6)シミュレーションとその有効性 (7)決定とコントロールのための情報システム (8)行動科学モデル

3 各国OR学会からの貢献

英国・米国(各3篇) 日本・フランス・ドイツ・インド(各2篇) その他のOR学会(各1篇)からの論文発表

4 新しい領域への適用

ORが十分に適用されていない、以下の領域において提起された問題を中心に解決策まで導くワークショップ。

- (1)教育システム (2)都市計画 (3)工業技術の発展への道標 (4)内政問題 (5)農業研究 (6)厚生・福利システム (7)犯罪防止 (8)公害

5 非公式ないくつかの討論会

■ 論文募集

当学会に割り当てられた論文2篇については、下記の要領で募集し、学会においてしかるべき詮衡をいたします。

提出期限 46年10月31日

提出先 〒162 東京都新宿区市ヶ谷仲之町18
富士学院内

日本オペレーションズ・リサーチ学会
(IFORS 論文であることを封筒に明記してください)

内 容 ・英文で、30分の発表時間に妥当な長さのもの。

・未発表のもの。

・最近の研究にかかわるもの。

・理論と応用とがたくみにつり合った特定の対象に関するもの。政策的にみてプロジェクトに関係しうるものであれば、理論的ないし総合報告的なものでもよいが、総括的な報告のみのものは避けること。

以上です。ふるってご応募ください。

提出論文は、A4判の白紙に英文ダブルスペースで打ち、40枚以内(図・表は別)、3部をお送りください。

オペレーションズ・リサーチ視察団派遣のお知らせ

期間 昭和46年4月3日より4月26日まで。

視察団調査事項 ・IFORS 主催 Cost-Effectiveness国際会議(4月12日~4月15日)への参加・米国内の企業、研究機関、シンクタンク等におけるORやコンピュータの最新動向の視察

視察団の構成 国際会議での日本OR学会の代表者 宮川公男 一橋大学商学部助教授 ほかに計10名

視察先 ポストンコンサルタントグループ、アーサー・D・リトル、マッキンゼー、システム・リサーチ研究所(IBM社)、Institute for Defense Analysis、アナリシス・サービス・インコーポレイティッド、コンサッド・リサーチ・インコーポレイティッド、システム・ディベロップメント・コーポレイ

ジョン, テンボ, B. A. R. T.

国際会議: First International Discussion Conference on OR 1971

46年8月23日から27日まで、英国オックスフォードにおいて、討論のみの国際会議が開かれます。出席者は全体で150名に限られておりますが、46年6月までの申込期限ですから、詳細を知りたい方は学会事務局にお問い合わせください。

関連学会ニュース

下記の会議が開催されます。詳細は学会事務局へお問い合わせください。

会議名 IFAC Symposium on the Control of Distributed Parameter Systems

日程, 所 1971年6月21日~23日 Banff, Alberta, Canada

主催者 IFAC Technical Committee on theory.

議 題 Modelling, Identification, Optimal Control, Adaptive Control, Stability, Sensitivity, Computer Control, Applications, Future Developments, Distributed Parameter Networks, Mixed Distributed and Lumped Parameter Control Systems, Control of Complex DPS.

第2回“TEMPO セミナー”参講記

一昨年(44年)につづいて昨年(45年)11月第2回“TEMPO セミナー”が日本システム開発研究所主催、当学会協賛で3日間の日程で開催された。

TEMPOおよびその第1回セミナーについては前回の報告でその概要が述べられておりますので(経営科学第13巻第3号, 海辺不二雄氏報告)ご参照ください。

今回のセミナーは前回同様の形式で行なわれ、講師は TEMPO から S. M. Chorr 氏(所長), D. Lebell 氏(民需部・情報システム部マネージャー), R. H. McMahan 氏(ハワイ・オフィスマネージャー官公需部専門研究員)の3名で、マードィネータに原野秀永氏(東芝), 福島康人氏(防衛庁), 通訳に海辺不二雄氏(東芝), 出居茂氏(早大), 福田隆二氏(サイマル・センター), 浅井達二氏(〃)があたられた。

セミナーのテーマは、(1)TEMPO 研究所の説明、

(2)システム分析, (3)経営プランニング・モデル, (4)企業の戦略的プランニングで、テーマ(1), (3)は前回との重複テーマで簡略説明され、主として(2), (4)のテーマについての説明が行なわれた。

テーマ(2)は、PPBS に代表される費用効果分析の概念を中心としたシステム分析の方法を事例を通して説明された。

テーマ(4)は、戦略的プランニングをシステムティックに推進する方法を示すもので、かなり柔軟性をもたせた所定の手順を通してプランニングを効果的に行なえることを例示された。ここでも費用効果の概念を基盤にしているが、問題の性質から、それをより数量空間で抽象する工夫およびシステム評価の手法が綿密化されていて、参加者の反応も大きかったようである。(神品記)

会 合 (45年10月~46年2月)

(かっこ内は出席者数)

理事会 45.11.18; 46.2.4

第3回45.11.18(23) 議題 1. 組織強化委員会報告, 2. 賛助会員拡充委員会報告, 3. 法人化の件, 4. 上半期収支決算報告, 5. 企業会計情報システム訪米視察団の件, 6. 広告委員会報告, 7. 月例講演会の件, 8. 入退会の件, 9. 秋季研究発表会の報告, 10. その他.

第4回 46.2.4 (21) 議題 1. IFORS International Cost-Effectiveness Conference 参加の件, 2. 1971年度総会及び研究発表会の件, 3. 評議員の選出の件, 4. 法人化の件, 5. 月例講演会の第1回開催報告, 6. 企業会計情報システム訪米視察団帰国報告, 7. 職員採用の件, 1月27日より星登美子氏を採用した, 8. 1971年秋季研究発表会の件, 9. 1970年度秋季研究発表会収支決算報告, 10. 入退会の件, 11. その他.

OR金曜サロン 45.10.2. 第14回“数式模型の効用”(9); 45.11.6. 第15回“題名のない放談会”(12); 第16回46.1.8. “マルコフ模型”(7); 第17回46.2.5. “物質不滅の法則”(6)

IAOR 委員会 45.10.28. (4); 45.12.1. (4); 46.1.13. (4); 46.2.18. (3)

組織委員会 45.10.29. (7); 45.11.2. (7); 45.11.27. (4); 45.12.14. (4); 46.2.24. (4)

チャーチマンタ食会 45.10.29. (17)

賛助会員拡充委員会 45.11.13. (3)

広告委員会 45.12.4. (4)

刊行物委員会 46.1.22. (14)

cost-effectiveness 国際会議打合せ 46.1.22. (7)
法人化委員会 46.1.25. (10)
庶務幹事会 45.10.6. (6); 45.11.10. (5); 45.12.8. (7); 46.1.22. (6)
刊行物幹事会 45.10.16. (10); 45.12.8. (10); 46.1.29. (9)
会計幹事会 45.10.28. (4); 45.12.8. (4)

研究部会 (45年9月~45年12月)

(部会報告書提出済のもののみ)

設備投資・取替計画の経済計算 45.9.10. (8); 45.9.24. (6); 45.10.22. (6); 45.11.26. (6); 45.12.22. (10)

組み合わせ理論 45.9.25. (9); 45.10.23. (12); 45.11.27. (11); 45.12.25. (8)

予 測 45.9.30. (8); 45.10.21. (9); 45.11.25. (9); 45.12.16. (6)

数理計画 (MP) 45.9.25. (13)

入退会 (45年11月18日より46年2月5日まで・2月5日理事会にて承認)

入 会

(通常会員)

松井正之 (広島大学)・津曲直躬 (東京大学)・納富俊光 (三菱重工業)・河原 靖 (日本電子工学院)・寺井元一 (日本ビジネスコンサルタント)・関口啓三 (シルバー精工)・蔵野正美 (大阪大学)・山野剛助 (金沢工業大学)・鶴塚健吉 (三井信託銀行)・北岡正敏 (神奈川大学)・小幡 卓 (防衛庁)・津原 進 (日立製作所)・加藤劔嗣 (防衛庁)・堺 泰夫 (名古屋市工業研究所)・中島達夫 (名古屋市工業研究所)・小林富士男 (東京工業大学)・中村博美 (東亜燃料工業)・Khosrow K. Zamani (Arya-Mehr Univ. of Technology)・Jatinder N. D. Gupta (Univ. of Alabama in Huntsville)・元 震喜 (仁荷工科大学) (以上20名)

(学生会員)

寺岡義伸 (大阪大学)・楠原 修 (大阪大学)・中井暉久 (大阪大学) (以上3名)

退 会

(賛助会員) 住友金属工業株式会社 (以上1社)

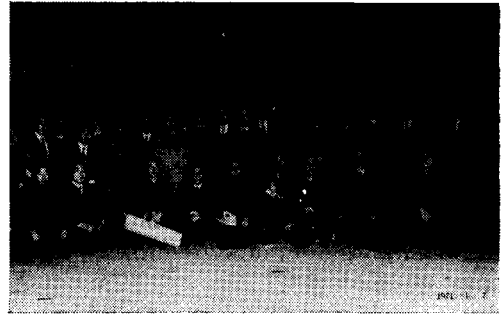
(通常会員) 水原国三・稲生喜敏 (以上2名)

(学生会員) 中村政男 (以上1名)

企業会計情報システム訪米視察団帰国

前号でお知らせした視察団 (26名) は、1月7日

羽田を出発し、好天に恵まれて、予定の日程を滞りなく完了し、2月1日、無事帰国いたしました。視察の成果は、月例講演会、研究発表会、学会誌等を通じて発表される予定ですので、ご期待ください。



45年度論文審査委員

45年度発行の経営科学及び Journal of the Operations Research Society of Japan の投稿論文の査読は次の方々によるグループにお願いしました。

阿部俊一・阿部 統・青沼龍雄・青山博次郎・秋葉博・浅野長一郎・朝尾 正・五百井清右衛門・伊倉一孝・伊理正夫・石川 馨・出居 茂・今村和男・梅沢 豊・卜部舜一・江藤 肇・小笠原 暁・小笠原正巳・小田中敏男・大沢 豊・丘本 正・奥村誠次郎・加瀬滋男・春日井 博・片岡信二・茅野 健・川野幸三郎・岸 尚・北川敏男・国沢清典・木暮正夫・小林竜一・古林 隆・後藤昌司・米谷栄二・近藤次郎・斉藤嘉博・坂口 実・坂本 実・渋谷政昭・洲之内治男・鈴木義一郎・鈴木武次・千住鎮雄・反町迪子・多田和男・高橋磐郎・高松俊朗・竹内清・刀根 薫・徳山 長・中村義作・鍋島一郎・成久洋之・西田俊夫・西野吉次・羽鳥 司・林 成光・原 亨・伏見正則・藤沢武久・福田治郎・堀川映二・堀部安一・真壁 肇・真鍋龍太郎・前田活郎・牧野都治・松田正一・松田武彦・三浦宏文・三上操・三根 久・水野幸男・宮沢光一・本告光男・森雅夫・森村英典・矢部 真・柳井 浩・山本正明・依田 浩・横井 満・米田桂三・渡辺浩

会員計報

河辺 旨氏

昭和46年1月6日死去されました。(行年67歳)
 昭和35~45年本会評議員, 昭和37~38年本会理事。

慎しんでご冥福をお祈りいたします。